

- 1 単元名 新聞記事を読んで「書き手のメッセージはなんでショー」を開こう  
教材名「新聞記事を読み比べよう」

2 単元について

〈本単元で取り上げる指導事項〉

- Ｃ読むこと (1)イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。  
ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

〈教材の特質〉

本教材「新聞記事を読み比べよう」は、身近なメディアの一つである新聞を取り上げ、新聞記事の種類、紙面の編集のされ方などを説明している。新聞記事を構成する見出しやリード文などとともに、写真の役割を確かめ、新聞の特長や構成を学ぶ。そして、「アユの遡上」を取材した二つの新聞記事を取り上げ、見出し、リード、本文、写真を関係づけて読み比べ、共通点と相違点に注目しながら、事実と感想、意見などの関係を押さえることで、書き手の意図（メッセージ）を読み取り自分の意見をもつことができる。新聞に親しみ、関心をもつ児童を育てるのに最適な教材であるといえる。

補助教材として、数社の新聞を用意し、いろいろな記事を読んで書き手の意図（メッセージ）を読み取ったり自分の考えを広げたり深めたりすることによって、新聞をもっと読もうという意欲を広げていくこともできる。

〈本単元に関わる子どもの実態〉

- ・4年教材「みんなで新聞を作ろう」では、新聞の書き方を学び、「広告と説明書を読み比べよう」では、必要とする人の用途によって表現の仕方や内容に違いがあることに気づいた。
- ・叙述をもとに自分の考えを簡潔にまとめ、条件に合わせてあらすじをまとめて書く活動に個人差が大きい。
- ・5月教材「動物の体と気候」では、筆者が何について述べようとしているのかとらえ、文章構成を考えながら要旨をとらえたが、うまくまとめられない児童もいた。
- ・朝読書の新聞読では、興味関心のある記事はよく読んでいる。しかし児童の中には、漫画やクイズしか読まない児童もおり、情報量に差がある。

〈つけたい力〉

○教材文の二つの記事を読み比べて、見出しやリード、本文、写真を手がかりにしながら、書き手の意図（メッセージ）を読み取ることができる。

- ・新聞の見出しやリード、本文、写真をワークシートにまとめ、共通点や相違点を整理する。
- ・事実と感想、意見などの関係を押さえることができる。
- ・書き手が伝えたかったことを考えて読むことができる。

○自分の選んだ新聞の、見出しやリード、本文、写真を手がかりにしながら書き手の意図（メッセージ）を読み取り友だちに伝えることができる。

- ・ワークシートをもとに、書き手の意図（メッセージ）を読み取り自分の考えをもつ。
- ・自分の考えを広げ、友だちの考えを聞いてさらに深めることができる。

## つけたい力の明確化

### ○つけたい力の系統性

【既習】	【本単元】	【次単元】
・広告と説明書の文章を読み比べ、それぞれの目的に合わせた表現の違いを読み取る。	・記事と写真との関係に注意しながら新聞記事を読み比べ、書き手の意図を読み取る。	・四つの投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取る。

○学習用語 新聞 見出し リード 本文 写真 キャプション 書き手 意図 (メッセージ)  
事実 感想 意見

## 単元展開の工夫

単元の導入では、T2 (司書教諭) と同じ出来事を取り上げた二つの新聞記事の書き手の意図を読み取って「書き手のメッセージは何でショー」を紹介する活動を行い、それぞれの新聞記事の書き手の意図 (メッセージ) を表現することに興味をもたせたい。さらに、第三次では、同じように教材文とは異なる新聞記事から書き手の意図 (メッセージ) を読み取り、さらに自分の考えをまとめて「書き手のメッセージはなんでショー」を開いて、友だちに紹介するというゴールイメージを明確に持たせて意欲づけをし、並行して新聞読に取り組みせたい。

第二次では、新聞全体の構成をとらえさせる。新聞記事の「逆三角形の構成」と言われる結論を見出しで先に示し、リードから本文へと次第に詳しく書かれているという特徴を読み取らせたい。その特徴を押さえた上で、書き手の意図 (メッセージ) を読み取るために二つの記事を読み、共通点や相違点をとらえることができるように、事実や感想、意見などとの関係をおさえるようにする。その際、新聞の構成や事実や感想、意見などが明確に分かるように色を変えて囲んだり、ラインを引いたりするようにして書き手の意図 (メッセージ) を確かなものになるように支援する。T2 (司書教諭) は、記事の読み取る活動が苦手な児童を中心に支援を行う。読み取った書き手の意図 (メッセージ) をペアやグループ学習を通して伝え合い、話し合いをしてまとめ「書き手のメッセージはなんでショー」を開くようにする。

第三次では、自分の選んだ新聞記事の「書き手のメッセージはなんでショー」をするために、学習したことを生かし、書き手の意図 (メッセージ) を読み取って自分の考えをまとめ、それを友だちと紹介し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりして新聞をもっと読もうという意欲を広げていく。

## 主体的な学びをつくる工夫

- ・朝の会で「今日のトピクス」を発表して学習への意欲付けをする。
- ・学習が見通せるように単元計画をつくり、毎時間本時の位置を確認する。(個人、全体)
- ・新聞の構成をとらえるために拡大した新聞を掲示し、学習の足跡を残す。
- ・友だちがどうとらえているかを適宜ペア、グループ学習を取り入れ主体的な学習になるようにする。

〈本単元の目標と評価規準〉

目標	○新聞を読み比べて、書き手の意図（メッセージ）を読み取り自分の意見を伝え合う。		
評価規準	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
	① 新聞記事には書き手の意図（メッセージ）があることを理解し、進んで書き手の意図を読み取ろうとしている。 ② 読み取った書き手の意図（メッセージ）をもとに自分の考えを伝えようとしている。	① 二つの新聞記事を読み比べ、見出しやリード、本文、写真を手がかりしながら、それぞれの書き手の意図（メッセージ）の違いを読み取っている。 ② 自分の選んだ新聞記事を自分の考えをもちながら、読み書き手の意図（メッセージ）を読み取っている。	① 新聞に書き手の意図（メッセージ）に応じた構成がなされていることを理解している。

3 単元構想（全6時間）

	次	主な学習活動	評価規準【 】と評価方法（ ）
つかむ		○自主学習や朝読で新聞記事を読み、感想を書く経験をしておく。 ○朝の会で「今日のピックアップ記事」を発表して学習への意欲付けをする。	
	一	新聞記事を読んで、書き手の意図（メッセージ）を読み取り伝え合う学習計画を立てる。	
	1	○学習課題を知り、学習に見通しをもつ。教師の「書き手のメッセージはなんでショー」を聞き、書き手の意図によって書き表し方が違うことに気付き、新聞に興味・関心をもつ。	【関①】書き手の意図により、新聞の編集の仕方や記事の書き方に違いがあることに気付き、新聞を比べて読もうとしている。 （ノート・発言・行動観察）
取り組む・振り返る	二	新聞の構成について理解し、二つの新聞記事を読み比べ書き手の意図（メッセージ）を考える。	
	2	○新聞記事の構成をつかみ、実際の記事で確かめる。	【言①】記事に使われている言葉や文章の構成について理解している。 （ワークシート・発言）
	3	○教材を比較して読み、共通点や相違点をとらえる。	【読①】記事を読み比べて共通点や相違点を読み取っている。 （ワークシート・発言）

	4 (本時)	○前時の学習を生かし、二つの記事の書き手の意図(メッセージ)を考え「書き手のメッセージはなんでショー」を開く。	【読②】新聞記事を読み比べて書き手の意図を読み取っている。 (ワークシート・発言)
三		自分の選んだ新聞記事の書き手の意図(メッセージ)をまとめ、自分の考えを伝え合う。	
	5	○自分の選んだ書き手の意図(メッセージ)を記事内容の構成などからまとめ、自分の考えを書く。	【読②】新聞記事を読んで書き手の意図を読み取り、自分の考えをまとめている。 (ワークシート・行動観察)
	6	○「書き手のメッセージはなんでショー」を開き、自分の考えを伝え合い、さらに新聞を読もうと意欲をもつ。	【関②】新聞記事から読み取った書き手の意図(メッセージ)や自分の考えを進んで伝えている。 (行動観察)
広げる	○これから新聞を読むとき、見出しやリード、本文、写真などから書き手のメッセージを考えながら読む。 ○新聞を読んで自分なりの意見をもつ。 ○新聞に興味、関心を持って読み、社会の出来事や情報の幅を広げる。		

#### 4 本時の学習

- (1) 目 標 二つの新聞記事を比べて読み、書き手の意図(メッセージ)を読み取ることができる。
- (2) 準 備 教師：新聞記事拡大コピー ワークシート(掲示) 児童：ワークシート
- (3) 学習過程

学習活動と教師の働きかけ ・予想される児童の反応	○留意点と評価 (観点)【評価方法】
1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○前時までの二つの新聞記事の共通点や相違点を簡単に振り返り、本時への意欲づけをする。
	め) 2つの新聞記事の書き手のメッセージを読み取ろう。
2 記事の内容にどのような違いが出てきているのかをとらえて、書き手の意図(メッセージ)を考える。	○学習の足跡を参考しながら、書き手の意図(メッセージ)を読み取るように助言する。 ○30字以内にまとめられるようにワークシートを用意する。 ○まとめ方に困っている児童へは、記事の中心を短い言葉で表した見出しや記事の内容を短くまとめたリード、本文の終末部分に着目させ、それぞれの書き手のメッセージをとらえさせる。 ○ワークシートに表現している言葉を座席表に記入しながら把握し、評価したい言葉を一人ひとり

<p>3 「書き手のメッセージはなんでショー」を開き、考えを伝え合う。</p> <p>(1) グループで伝え合う。</p> <p>(2) 全体で伝え合う。</p> <p>&lt;A社&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アユが200万匹ももどって、つり人たちの期待が高まっている。</li> <li>・アユが多摩川にもどり今年もアユのシーズンがやってきた。</li> <li>・いなくなったアユを自然がとりもどしてくれた。</li> <li>・自然がもどり一度いなくなった「江戸前アユ」がかえってきた。</li> </ul> <p>&lt;B社&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よみがえった「多摩川」にアユがやってきた。</li> <li>・人々の努力でついによみがえった多摩川には自然がいっぱい。</li> <li>・豊かな自然のめぐみをあたえてくれる多摩川がよみがえった。</li> <li>・よみがった多摩川にアユがさかのぼっている。</li> </ul> <p>4 読み取った書き手の意図（メッセージ）から自分の考えを書く。</p> <p>5 学習のまとめをする。 児童の振り返り 全体の振り返り</p>	<p>見つけながら机間指導する。[T 1]</p> <p>○児童に気づかせたい記事の表現が書かれているか机間指導の中で確認し、気づいていない児童へは、アドバイスする。[T 2]</p> <p>○記事の表現を手がかりに根拠を明らかにしながら意見を伝えるように促す。</p> <p>○グループで自分の読み取った書き手の意図（メッセージ）伝え合い、友だちの考えと比較して、さらに深い読み取りができるようワークシートに書き足しながら聞くように助言する。</p> <p>○グループで話し合った書き手の意図（メッセージ）をホワイトボードに書くように促す。</p> <p>○机間指導しながら読み取りが深まった箇所に赤線を引き、評価をしていき、意欲づけをする。 [T 2]</p> <p>○全体的話し合いでは、自分の考えと友だちの考えを聞き比べ、読み取りが深まり、考えが高められるようにする。</p> <p>【評価】新聞の記事内容から、書き手の意図（メッセージ）をとらえている。 (読む能力) [ワークシート]</p> <p>○話し合ったことを参考にしながら、自分の考えをまとめるように促す。</p> <p>○自分の考えを20～30字程度でまとめ、簡潔な言葉で書くように助言する。</p> <p>○本時の学習で書き手の意図（メッセージ）の読み取りが深まったことを評価する。</p>
--	--